

横浜高速鉄道みなとみらい線・東急電鉄東横線 横浜駅



外観

横浜駅のデザインコンセプトである「透明感と光のあやが織りなすクリアな空間」にあわせてトイレの外観デザインも一新し、明るい印象に生まれ変わった。



女性トイレ 洗面コーナー

水濡れを心配せずに手荷物が置けるツインデッキカウンターを採用。衛生性に配慮して自動水栓と水石けん、クリードライを完備している。



女性トイレ スタylingコーナー

隣の人の視線が気にならないよう、かつ破損時のメンテナンス性を考慮して個別鏡を採用。鏡裏やカウンター下に設置した間接照明が落ち着いた雰囲気を出している。

トイレ図面

男女ともすべての大便器を洋式化。混雑緩和のため、女性トイレは改修前よりブースを2個増設。また、異性の介助が必要な方や性的マイノリティの方などにも配慮して多機能トイレとは別に男女共用トイレを2ヶ所新設した。



女性トイレ 大便器コーナー

突き当たりの壁面のモザイクタイルが爽やかな印象。大便器ブースの間仕切壁を天井まで立ち上げ、防犯対策をはかるとともに、個室感を高めている。



女性トイレ 大便器ブース

床の清掃性に優れた壁掛大便器を採用。すべてのブースにウォシュレット・手すり・呼び出しボタンを設置。外国人の利用も多いことから、トイレの使い方を4ヶ国語で案内している。



男性トイレ 洗面コーナー

女性トイレ同様にツインデッキカウンターを採用。さまざまな利用者に配慮して手すりを設置。



男性トイレ 小便器・大便器コーナー

小便器は床の清掃性と節水性に優れた壁掛自動洗浄小便器を採用。大便器は利用者の快適性に配慮してウォシュレット付きとしている。



男女共用トイレ

お子様連れや異性介助が必要な方、性的マイノリティの方などが気兼ねなく利用できるよう、多機能トイレ以外に男女共用の個室完結型トイレを2ヶ所設置。ペーパーシートやフィッティングボードも完備している。



多機能トイレ

左右勝手違いで2ヶ所に設置した多機能トイレは、車いす利用者をはじめ、オストメイトにも配慮して汚物流しをセッティングしている。

水まわりの特長

改修の経緯

横浜高速鉄道みなとみらい線と東急電鉄東横線が相互直通運転する横浜駅は2004(平成16)年に開業。1日の平均利用者が合わせて36万人という一大ターミナル駅でもある。開業から約16年が経過、時代に即した快適なトイレを実現するため、2018(平成30)年に利用者実態調査を実施して現状課題の洗い出しを行った。その結果、以下の5点を改修工事のコンセプトとした。①適正器具数の整備②和式から洋式への変更③男性トイレの出入口を見直し、並びにくさを解消④異性介助や性的マイノリティの方への配慮⑤スタylingコーナーの拡張。改修の結果、混雑の緩和をはじめとした利便性が向上し、時代にあった快適なトイレが実現した。

トイレの特長

改修前の現場調査の結果、男女ともに和式便器は利用者が少ないことから、すべての大便器を洋式化、さらに時代のニーズを意識してウォシュレットを設置した。女性トイレは混雑緩和のため、改修前よりブースを2個増設、さらにスタylingコーナーを拡張してお化粧直しにも配慮。男性トイレは2ヶ所あった入口を1ヶ所に集約して動線をわかりやすくした。また、異性の介助が必要な方や性的マイノリティの方などが気兼ねなく使えるよう、多機能トイレ以外にも男女共用の個室完結型トイレを2ヶ所新設した。さらに外国人利用者に対しては、トイレの使い方シールを4ヶ国語で掲示するなどさまざまな利用者に配慮している。内装は透明感と光が感じられる爽やかなデザインでトイレのイメージを一新した。

建築概要

名称	横浜高速鉄道みなとみらい線・東急電鉄東横線 横浜駅
所在地	神奈川県横浜市西区南幸1-1-1
施主	横浜高速鉄道株式会社 東急電鉄株式会社
設計・施工	東急リニューアル株式会社
竣工年月	(改修)2020年3月
構造・階数	鉄筋コンクリート造、一部鉄骨鉄筋コンクリート造 地下5階、地上1階

おもなTOTO使用機器

大便器ユニット:UTNCBE/ウォシュレットPS:TCF5503PR系
 スペーパー付紙巻器:YH163 L/R S/小便器ユニット:UTNUAN
 洗面器ユニット:UTNLCE, UTNMAC
 クリンドライ(ハンドドライヤー):TYC420W, TYC320W
 多機能ユニット:UTNDAA特/ペーパーチェア:YKA15R, YKA16R
 ペーパーシート:YKA25R/フィッティングボード:YKA41
 パブリック用手すり:T112CL10, T112C6, T112CU22, T112CP9R